

令和6年度 伊勢志摩国立公園地域協議会

# 「伊勢志摩国立公園ビジョン」の 検討・作成について

伊勢志摩国立公園

コンセプト: 悠久の歴史を刻む伊勢神宮 人々の営みと自然が織りなす里山里海

令和7年1月

## 伊勢志摩国立公園ビジョン 検討・作成の経緯の確認



- 伊勢志摩国立公園地域協議会において、国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム改定や国立公園指定80周年指定を前に、今年度、ステップアッププログラム2030や伊勢志摩国立公園公園計画に実装するための、伊勢志摩国立公園ビジョンを策定することを決定
- 現状把握のため、地域協議会構成員・アドバイザーにアンケート調査を実施
- ビジョン策定には、10年後20年後に伊勢志摩をひっぱり手となる若者に、検討に加わってもらうこととなり、地域協議会構成員・アドバイザーから推薦いただき検討メンバー決定
- ワークショップ形式（全3回）により、ビジョンを検討し、ビジョン案をとりまとめ

改めて…

<伊勢志摩国立公園ビジョンって何？>

- ✓伊勢志摩国立公園の10年後、20年後の将来像
- ✓目指すべきゴール。未来のあるべき姿。
- ✓伊勢志摩国立公園の方向性を決定づけるもの
- ✓具体的には、どのような状態を実現したいのか、どんな価値を提供したいのかを明確にするもの

3

<何に使うの？>

- ✓伊勢志摩国立公園に関わる全ての人が、共通の目標に向かって進むための指針となる。意思決定の基盤となる。
- ✓明確なビジョンがあることで、自分の役割や目標を理解しやすくなる。
- ✓ビジョンは外向けに価値観を示すことにもなるため、地域外からの来訪者やパートナーとの信頼関係を築くのにも役立つ。

伊勢志摩国立公園の最上位計画や、満喫プロジェクトの行動計画（ステップアッププログラム）に位置付けられる予定

4

# 伊勢志摩国立公園ビジョン検討のための関係者・団体アンケート調査の結果報告

5

## 調査概要



### ■調査件名

伊勢志摩国立公園ビジョン検討のための関係者・団体アンケート調査

### ■アンケート調査のねらい

- ①ビジョン検討に資するため、国立公園関係者の10～20年程度を振り返っての評価（現状の満足度）を明らかにする
- ②ビジョン検討に資するため、ビジョンに盛り込むべき要素として、国立公園関係者の思いを広く収集する

### ■設問

- ・伊勢志摩国立公園の自然資源、人文資源、観光施設、利用状況、地域の人の認知度等について10年前（2016年）～20年前（2006年）からの変化について
- ・いい結果が得られたと思う取組
- ・改善又は変化を期待する点、変えたくない又は未来へ引き継ぎたいものについて
- ・貢献可能なこと、その他ご意見など

6

# 調査概要



## ■調査実施期間

・令和6年8月21日～

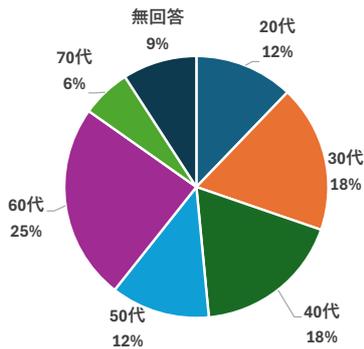
## ■調査数

…**回答33件** (2024.9.24時点)

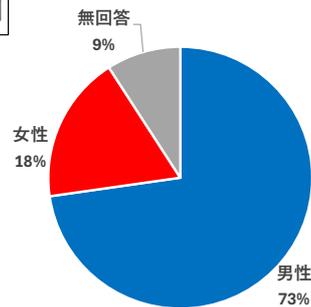
- ・伊勢志摩国立公園地域協議会構成員
  - ・伊勢志摩国立公園地域協議会アドバイザー
- ※複数名回答可 (ご協力ありがとうございます)

## ■回答者属性

年齢



性別

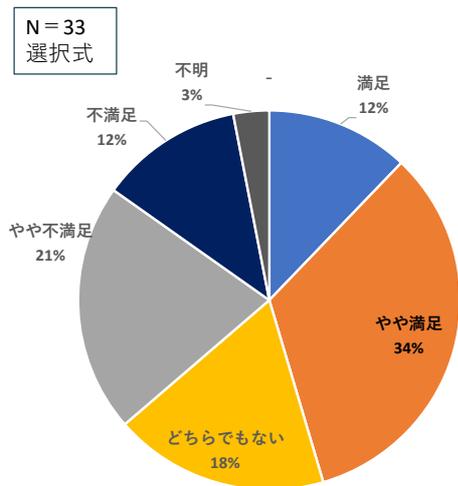


7

## 《過去の10年、20年の振り返りについて》

伊勢志摩国立公園の自然資源、人文資源、観光施設、その利用状況、地域の人々の認知度等について、10年前（2016年）～20年前（2006年）からの変化を踏まえ、該当する選択肢を選んでください。また、その理由を教えてください。

# 自然資源の状態



自然資源の例：  
リアス海岸、自然海岸（砂浜・磯・干潟）、海、島、常緑広葉樹林、動植物、温泉、星空、気候など

## ■主な意見（一部抜粋）

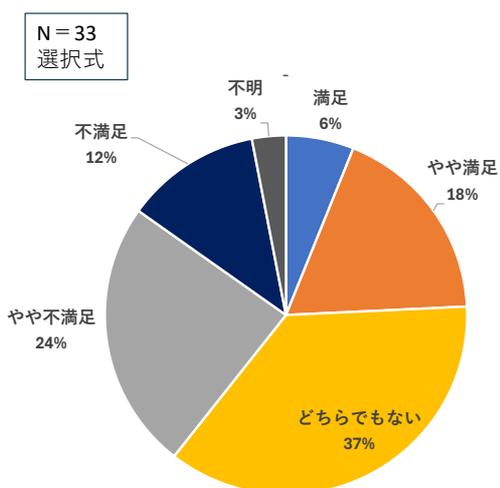
### ●満足、やや満足

- 景観や動植物など守るべき資源は一定水準の維持ができています。
- 展望台の整備や自然資源を活かした取り組みなどは当時より進められている
- 伊勢神宮を中心とした自然環境が守られている。

### ●不満足、やや不満足

- 太陽光発電施設の乱立（緑の色の山が失われ、海への土砂の流入など）
- 磯焼けで海藻・海草が減少して生物多様性が失われ、漁業、海女漁に影響
- 干潟の減少の話、漁獲量の減少などの話をよく耳にするようになった

# 人文資源の状態



人文資源の例：  
里海（沿岸海域）、里地里山（集落周辺）、集落景観、祭り、風習、食、産業、社寺等文化的建造物など

## ■主な意見（一部抜粋）

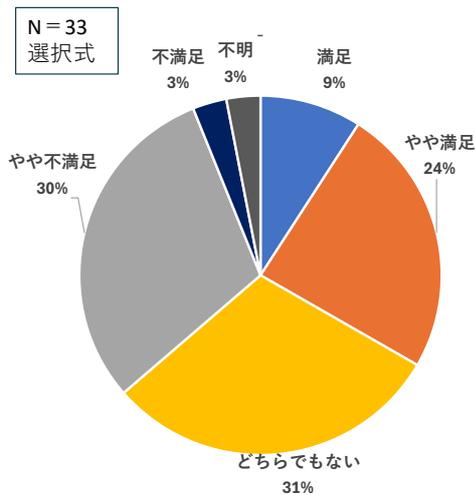
### ●満足、やや満足

- 昔はなんでもないものとされて雑に扱われていた景観でも、昨今では大切なものとしてきちんと遺していけるような意識が生まれていると思う。
- ワーケーションの利用が進み、地域の人と地域外の人との交流が増えた。

### ●不満足、やや不満足

- 祭りや風習、地域産業は人口減少により維持が難しくなっている。
- 人口減少により、里山の保全が心配。
- 海女の数が減少している。神島のゲーター祭り、坂手の棒練り、加茂五郷の盆祭礼など地域を代表する祭りが無くなった。海洋環境の影響からカキの閉塞死が増えて、カキ養殖業者が減少している。真珠養殖業者も減少している。

# 観光施設・宿泊施設等



観光施設・宿泊施設等の例：  
案内施設、歩道、園地、宿泊施設、休憩施設、ビジターセンター、水族館、博物館、レジャー施設など

## ■主な意見（一部抜粋）

### ●満足、やや満足

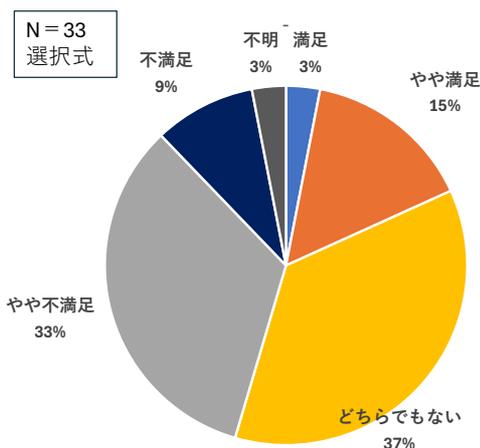
- 富裕層向けのリゾートやビジネスホテル、ゲストハウスや民泊などの進出もあり、**利用者の選択肢は増えた**。観光施設は着地型ツアーや海女小屋体験施設など個人や小グループでも参加しやすいメニューも出てきた。
- 伊勢志摩管内における宿泊施設の**バリアフリールーム**が飛躍的に増えている

### ●不満足、やや不満足

- **施設の老朽化**や**インバウンドの取り組み**への対応は十分とは言えない。
- 宿泊施設では、特に小規模施設において**後継者問題などから施設数が減少**している。
- 自然環境や景観にマッチした建物を作る発想が弱い。
- **高級志向**もあり、昔のような安く泊まれる民宿や公共の宿泊所が少なくなって来ている。

11

# 運輸交通関係



観光施設・宿泊施設等の例：  
JR、近鉄、バス路線、高速道路、伊勢志摩スカイライン、パールロード、大型クルーズ船など

## ■主な意見（一部抜粋）

### ●満足、やや満足

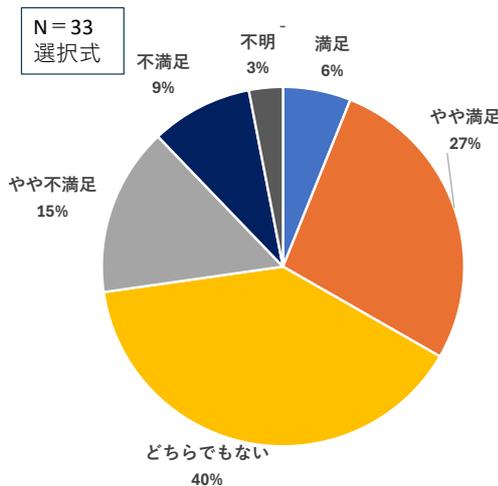
- GWや年末年始など多くの観光客がくる時期に神宮周辺に**パーク&バスライド**を実施し、渋滞が緩和された。また、限定的ではあるが、駅近くに**シェアリングステーション**も設置され、観光しやすくなった。
- **パーク&バスライド（伊勢）、パーク&シップライド（鳥羽）**はとてもいいシステムである。

### ●不満足、やや不満足

- 車社会やコロナ禍を経て公共交通機関に乗らない人が増え、**路線や本数が年々減少**している。
- 三重県全域として交通の便が悪い。飛行機、新幹線もなく、人口の多い**関東圏からのアクセスが悪い**。志摩市で進めているライドシェアなどに期待。
- **タクシー**に関しては、時間帯により**台数不足**も問題になっている。特に夜間。

12

# 自然・文化資源の利用状況



利用状況の例：

地域への来訪者数、来訪者の属性、自然・文化体験活動の実施状況、来訪者の満足度

## ■主な意見（一部抜粋）

### ●満足、やや満足

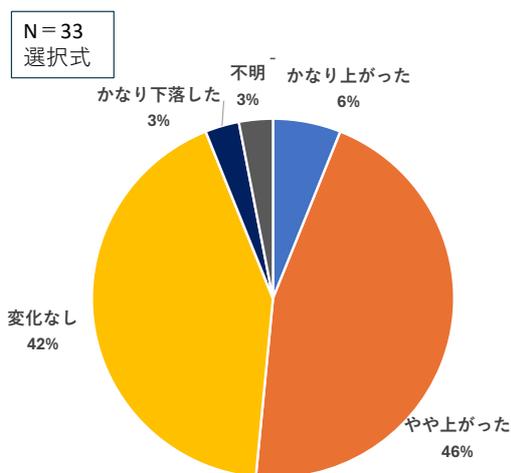
- ・ 来訪者が地域の自然・文化体験できるところが増えた。
- ・ 横山展望台デッキの改修工事やカフェの併設により、以前よりも観光客が増えた。以前と比較し、自然を眺望する人口が増えたと感じる。
- ・ 自然や文化資源を活かした体験（エコツアー）の受け入れ人数は20年前から4倍で、実施本数は10倍以上になっている。

### ●不満足、やや不満足

- ・ 多くの素晴らしい自然・文化資源が伊勢志摩にはあるが、そこに住む住人でさえどのような資源がありそれをどう活用してよいかかわからないのが現状だと思います。
- ・ 利用状況の前に、こうした自然・文化資源のPR、告知が圧倒的に足りない。

13

# 地域の伊勢志摩国立公園に対する認知度の向上



地域の人の認知度の例：

国立公園であるという認識があるか、国立公園を価値あるものとして認識しているか、国立公園を価値あるものとして利用・活用しているか、国立公園の価値を高める活動をしているか、持続可能な取り組みをしているか

## ■主な意見（一部抜粋）

### ●かなり上がった、やや上がった

- ・ 観光関係者や漁業者から「伊勢志摩国立公園」という言葉をよく耳にすることが増えた。
- ・ 自然環境の保全や活用など観光事業者や漁業者などの意識は高まったように感じる。
- ・ 2018年に横山展望台がオープンしたことでの情報発信で認知度は上がっている。

### ●変化なし、かなり下落した

- ・ 地域の人にとっては、素晴らしい景色や食材が当たり前のものとなっている気がする。それに価値があることを再認識し、どうやって魅力を発信していくかしっかり議論する必要があると思う。
- ・ 観光客からしても、国立公園に遊びに来ているという意識はあまりないように思う。おはらい町・おかげ横丁、水族館、テーマパークなど国立公園に遠いレジャー施設も多いため、仕方ない。このようなレジャー施設からも国立公園が意識されるような仕組みがとれるといい。

14

# 伊勢志摩国立公園に関する課題

(一部紹介)

## 課題 (一部紹介)

### ■自然資源・人文資源の課題

- 主に磯焼け、温暖化等による海の環境の悪化。
- 高齢化や後継者問題、コロナの影響等による伝統的文化（祭り、海女文化等）の廃れ

### ■観光施設・宿泊施設等、運輸交通関係の課題

- 事業者の高年齢化、施設の老朽化に伴う受け入れ態勢の不備
- 公園内の周遊に関しては、全体的に2次交通が不足しており、来訪者はタクシーやレンタカーなどを利用する必要がある。

### ■自然・文化資源の利用状況、認知度の向上の課題

- 来訪者に対して自然・文化資源を楽しんでもらう意識がまだ弱く、地域の住人でさえまだ伊勢志摩国立公園の価値について知らないのではないかと。

15

# 伊勢志摩国立公園に関する課題や取組

(一部紹介)

## 課題への対応 (一部紹介)

### ■運輸交通関係

- パーク&バスライド (伊勢)、パーク&シップライド (鳥羽)による渋滞緩和
- 観光特急しまかぜやまわりゃんせ（近鉄電車で4日間伊勢志摩エリアの観光スポットをお得に巡るきっぷ）の導入。
- 限定的ではあるが、駅近くにシェアリングステーションを設置。

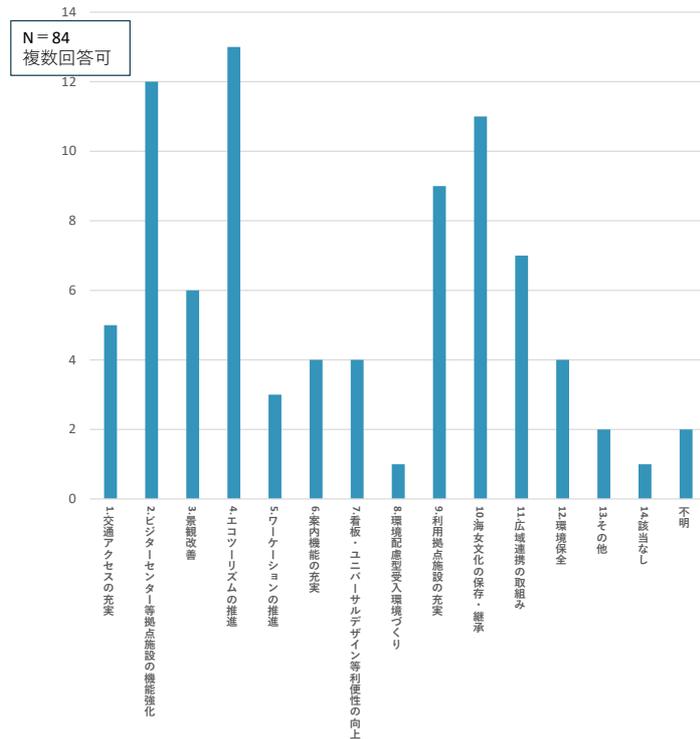
### ■自然文化資源の利用状況

- 伊勢志摩の自然を楽しめるアクティビティ施設やグランピング施設が増えており、子どもたちにとって勉強になるような自然や伝統文化の体験ツアーが増えている。

→全ての課題をすぐに解決することは難しいが、  
伊勢志摩国立公園地域内での取組は多数

16

## 伊勢志摩地域で実施されいい結果が得られたと思う取組



### ■上位3つの取組みについて

- デジタルセンター
- エコツーリズムの推進
- 海女文化



#### 【具体的な取組例】

- 横山展望台、横山デジタルセンター
- 鳥羽市エコツーリズム推進協議会や伊勢志摩国立公園協会などによりエコツーリズムの推進や自然体験の充実。
- 鳥羽市立海の博物館の敷地内に、2019年に三重大学海女研究センターが設置

## 伊勢志摩地域で実施されいい結果が得られたと思う取組

### ● その他取組

- 海女サミットの継続開催
- 白滝大明神の活用
- 南伊勢町の展望台付近のブランコ整備
- 伊勢志摩サミット（国内外に伊勢志摩の情報が発信され、認知いただく機会となった）
- ゴルフ場の利活用
- 多目的トイレの整備
- 情報発信
- 答志島トロさわらのブランド化
- ワーケーションの推進→宿泊事業者の若い労働力確保に貢献している。
- 観光特急しまかぜの導入。
- YoutuberやVtuberなどSNSを活用とした東京地域からの観光客の誘致（ex.志摩スペイン村、志摩地中海村等）

# 《伊勢志摩国立公園のビジョンについて》

10年後（2036年）や20年後（2046年）の伊勢志摩地域を想像してください。

①あなた自身が組織や肩書きに関係なく伊勢志摩地域にかかわる一人として考えている、**10年後、20年後までに改善又は変化を期待する点**

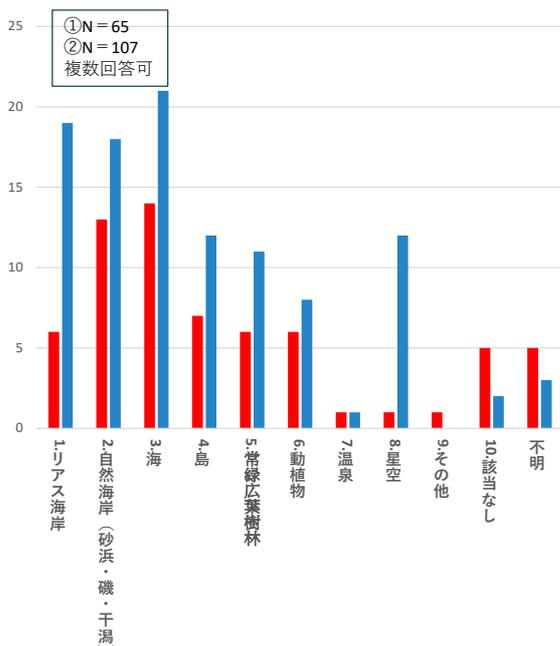
②あなた自身が組織や肩書きに関係なく伊勢志摩地域にかかわる一人として考えている、**10年後、20年後までに変えたくない点、未来へ引き継ぎたいもの**

19

## 自然資源

① 10年後、20年後までに改善又は変化を期待する点

② 10年後、20年後までに変えたくない点、未来へ引き継ぎたいもの



■ 主な意見（一部抜粋）

① どう変えたいか

- ・ 磯焼けの改善や海の豊かさを守り、水産資源の増加。
- ・ 地域食材の価値を高める
- ・ 豊かな海を再生することで、海が原点である祭り・風習・食文化の伝統を後世に引き継げる体制づくり
- ・ ウバメガシの循環利用による、海岸林の持続と、地場産業の再興やリニューアルを期待する。

② 理由

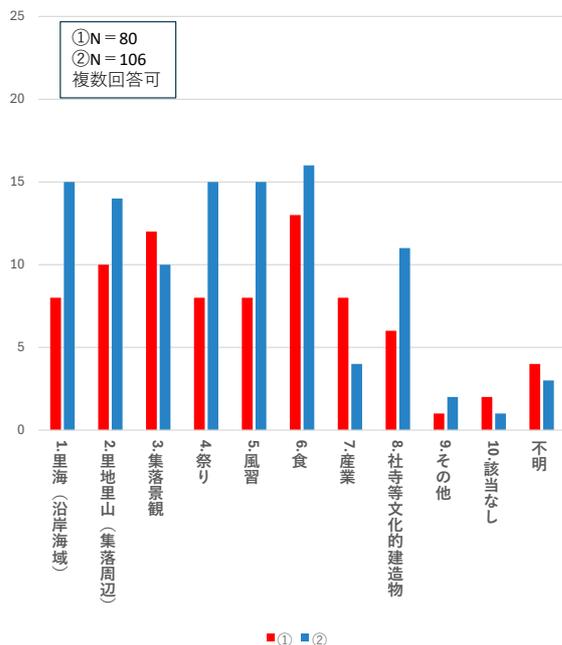
- ・ 自然景観は国立公園の最も大切な資源として守っていききたい。
- ・ リアス海岸、英虞湾等の自然景観は当地の唯一無二の宝であり、未来に残したい。
- ・ 自然景観は、心が落ち着き、だれもが癒されるから。

20

## 人文資源

### ① 10年後、20年後までに改善又は変化を期待する点

### ② 10年後、20年後までに変えたくない点、未来へ引き継ぎたいもの



#### ■ 主な意見 (一部抜粋)

##### ① どう変えたいか

- 食に関して、地域食材の価値を高める。
- 観光業などの若者が働ける産業の確保
- 郷土料理のバリエーションを生かすなど研究や情報発信の支援を続けてほしい
- 海が原点である祭り・風習・食文化の伝統を後世に引き継げる体制づくり

##### ② 理由

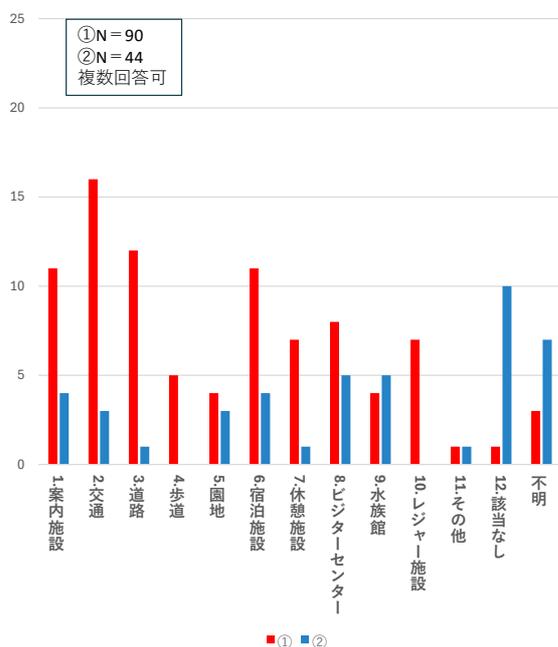
- 昔から語り継がれている言い伝えや地域の昔話、文化風習など、その土地のアイデンティティとなるような部分を未来へ継いでいく必要があると思っています。
- 青峯山正福寺の建造物等が、日ざらし、雨ざらしで劣化が目立つので、保護・修復をして長く引き継いでほしい。

21

## 宿泊施設・受入施設等

### ① 10年後、20年後までに改善又は変化を期待する点

### ② 10年後、20年後までに変えたくない点、未来へ引き継ぎたいもの



#### ■ 主な意見 (一部抜粋)

##### ① どう変えたいか

- 菅島の大山に展望台を作る。
- ビジターセンターにおいて案内機能や情報を充実させる。
- 横山展望台の渋滞
- 自転車でのツーリングが誘致され増えている。それ自体は歓迎だが、ルートが本当に適切かを含めて検討・対処してほしい。

##### ② 理由

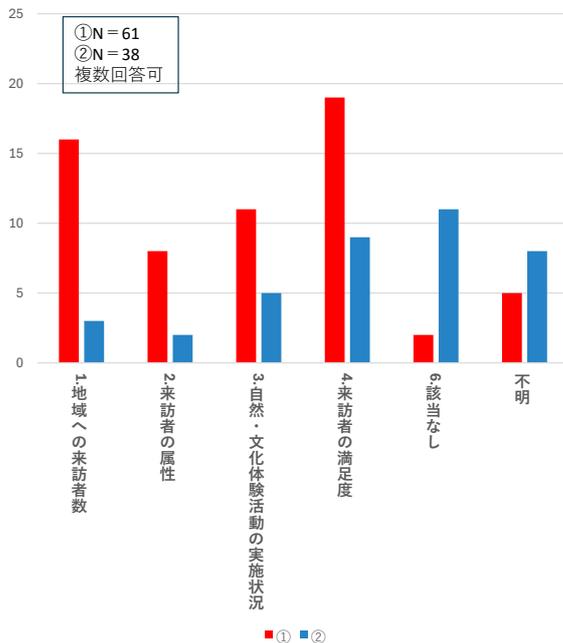
- 個人的には鳥羽市の日和山の遊歩道や安楽島海水浴場をよく利用し、気持ちも体も癒やされている。地元の人も観光客も海や森に気軽にアクセスできる場所は、なくしてはいけないと思う。
- 景色や鳥羽の海産物が堪能できる宿泊施設は残したい

22

## 利用状況

### ① 10年後、20年後までに改善又は変化を期待する点

### ② 10年後、20年後までに変えたくない点、未来へ引き継ぎたいもの



#### ■ 主な意見（一部抜粋）

##### ① どう変えたいか

- オーバーツーリズムを考慮したインバンド旅行者の受入環境整備。
- 2次交通や案内所の充実を図り、来訪者の利便性の向上。
- インバウンドが再び活気づいてきたが、まだ地域のポテンシャルに見合った来訪者の数ではなく、伸びしろがあると思う。
- 宿泊者を増加させるために、レジャー施設と宿泊施設の連携の強化に期待をする。

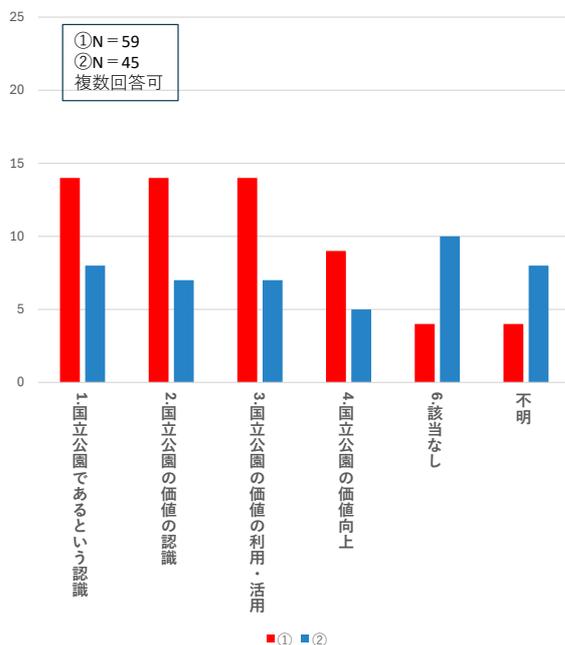
##### ② 理由

- 修学旅行や遠足でよく利用されていることは、国立公園としての役割の一つを果たしていると思うので、続いてほしい。

## 地域の人の認知度

### ① 10年後、20年後までに改善又は変化を期待する点

### ② 10年後、20年後までに変えたくない点、未来へ引き継ぎたいもの



#### ■ 主な意見（一部抜粋）

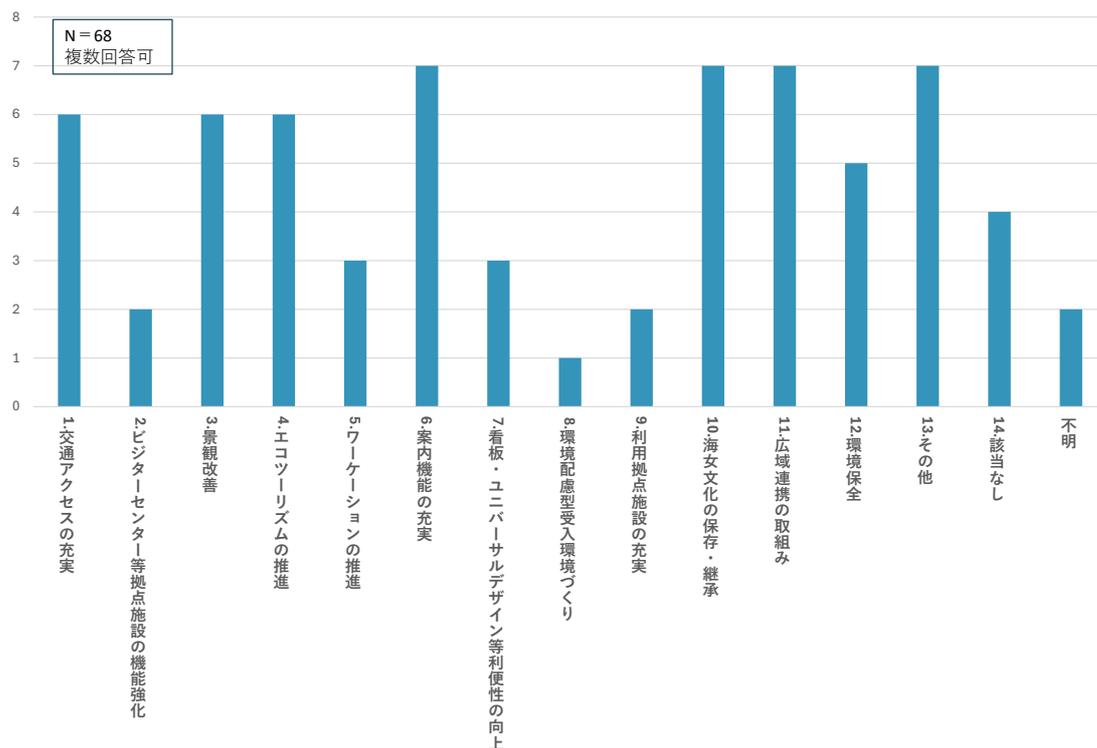
##### ① どう変えたいか

- 地元の子供たちが地域の自然で遊ぶ機会を増やす工夫。
- 駅構内や交通の拠点に「ここは伊勢志摩国立公園」などの表示があってもよい。
- 住みたい、訪れたい地域にすることで交流人口を増やし、少子高齢化対策や雇用機会の創出を図りたい。
- 小学・中学・高校生に国立公園の地域学習を積極的に行うよう県や市町に要望したい。

##### ② 理由

- インナープロモーションを充実させて、子どもたちからしっかり国立公園の価値や必要性を伝えていきたい。
- 伊勢志摩はどの地域より自然・文化が大事に守られている。「伊勢志摩に住んでいてよかったと思える地域である」

## 個人・所属する組織で貢献可能なこと



25

## 個人・所属する組織で貢献可能なこと

### ■具体的な取り組みについて（一部抜粋）

#### 1. 交通アクセスの充実

→広域の為、民間レベルで全ての地域のアクセス充実は困難。あらゆる面での国、県、市町からの支援が不可欠。利用上状況や来訪者の動向を注視しながらのダイヤ編成、車両タイプの（大小）選別など、固定観念にとらわれず柔軟かつ敏速な対応が必要。

#### 3. 景観改善→木製ガードレールの導入等

5. ワークেশョンの推進→グループ会社のホテル、旅館でのワークেশョンプランの増設や推進。

#### 6. 案内機能の充実

→印刷物の配置、窓口案内の充実を図る。ボランティアガイド等による神宮文化の伝達。

7. 看板・ユニバーサルデザイン等利便性の向上→インバウンドに対応した多言語看板の設置。

#### 10. 海女文化の保存継承

→鳥羽市景観計画に位置付けた取り組みの一環として、賛同の得られた海女集落を対象にして、伝統的な集落景観の保全継承のために景観計画に基づく重点地区へ、さらに文化的景観の指定に向けて尽力する予定。

→国立公園関連の発行物やウェブサイトでの発信。

11. 広域連携の取組み→伊勢志摩国立公園指定周年事業を継続させる。

12. 環境保全→環境保全活動に参加する。

26

# まとめ

## ■伊勢志摩地域の現状に満足している割合は少数

✓課題が多数あるが、具体策が難しいものもある、、、

■一方、伊勢志摩地域で実施されいい結果が得られた取組も多数あり、伊勢志摩地域で改善したいことや、未来へ引き継ぎたいものの多くは、地域の共通認識

■上記達成するための、伊勢志摩国立公園地域での取り組みは、  
各組織・個人で貢献可能なことは多数実施（予定）されている

■伊勢志摩国立公園指定80周年（2026年）を目標に、地域住民や観光関係者に、  
国立公園の歴史と価値を再確認してもらう。

■そのために、ビジョンを検討・作成し、それを実現する意思を持つ人を増やす  
必要がある。

27



# 伊勢志摩国立公園ビジョン 検討ワークショップについて

28

# 【第1回】ワークショップ



日時：令和6年12月20日（金）

場所：神岳テラス（伊勢市）

参加人数：

・ 検討メンバー18人

・ 講師＋事務局8人 計26人



## 【第1回WSの流れ】

- ・ 開会・参加者紹介
- ・ 本日の予定・趣旨説明
- ・ 講演  
伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会長  
江崎 貴久 氏
- ・ 講話  
鳥羽市企画財政課 企画経営室 木下 大輔 氏
- ・ 班分け
- ・ ワークショップ  
「私の人生と伊勢志摩の自然文化との関わりを話そう！」
- ・ 集合・各班Keyword共有
- ・ その他（国立公園について概要説明）
- ・ 今後の予定等事務連絡
- ・ 閉会

## 【A班】 「私の人生と伊勢志摩の自然文化との関わりを話そう！」キーワード

### ◆伊勢志摩の自然は生活そのもの

- ・ 96%が民有地で自然豊かな地域である。
- ・ 実家の通年行事を受け継ぎ体験したことで伝統文化や風習が自然と密接に関わっていると感じた。
- ・ 国立公園内に人が居住していることが伊勢志摩の特徴としてPRすべきである。

### ◆毎日みても飽きない自然

- ・ 地元の海は可もなく不可も無いが言葉で表現できない何かを感じる。
- ・ 相賀浦ニワ浜を訪れ癒されて帰るということを繰り返していた。
- ・ 地元で転職して感じたことは、この海や自然は毎日見ても慣れることなく美しいと感じることが出来るということであった。
- ・ 伊勢志摩は時々によって景色が変わるので地元民でも飽きることはない。
- ・ お客さんを案内する時、昨日と今日の天候の違いをわかって欲しくなる時がある。

### ◆悩んだり疲れると海、山、夕日でリセットされ、シンプルな気持ちに

- ・ 悩んだ時海に行き夕日を眺めていた。
- ・ 海を見ることで自分をリセットすることがある。
- ・ 悩んだ時に神宮（神様）にお参りに行く感覚で、海や夕日を見に行く。

### ◆イメージを無理に統一しなくても「わがわが」で伝える

- ・ 民有地の多い国立公園だからこそひとつにまとめるのではなく、住民から多くの伝えたいメッセージを集めると良いのでは。
- ・ 伊勢志摩で言うわがわが、である。
- ・ 伝えたいことを言うのはいいが、人の伝えたいことも否定してはいけない。

### ◆特別保護地区が神域（神様が守ってる）

- ・ 伊勢志摩国立公園は自然の美しさだけでなく畏怖の念を抱くことができる部分がアピールポイントである。
- ・ 人間の畏怖の念で神を守っているとも言える。

## 【B班】 「私の人生と伊勢志摩の自然文化との関わりを話そう！」 キーワード

### ◆当たり前だけど当たり前じゃない

- ・ 「続けること」は大事なテーマだ。自分達がしてきてきた事を次の世代へと受け継いでいきたい。
- ・ 地元の外に出て、伊勢志摩の生活に触れたことをきっかけに、地元（他県）にもこういった自然があったということを感じることができた。
- ・ 伊勢志摩にしながら現職にくるまで、アワビが少なくなっていることも知らなかった。
- ・ 当たり前の日常を送る中で環境が変わってきていることを実感している。
- ・ 「作っていない自然」「住んでいた人達が作ったありのままの自然」が離島にはある。
- ・ 海の博物館では、できるだけありのままの価値を見せていると感じる。漁具も綺麗な物だけではなく、壊れている物もそのままの形で見る事ができる。漁師さんの凄さ、仕事の大変さに気付かされる。

### ◆生きる感覚

- ・ 神島で危険な場所を歩いている時、海が綺麗や、太陽や地平線が綺麗ではなく、人から「生き物」に戻り、生きたい、という本能を掻き立てられたことを覚えている。

### ◆自然は「かたりば」である

- ・ 磯場で「磯もん」を取り、塩茹でしたものをおやつとして、ミルクと一緒に食べていた。そういった日常の生活があったため、南伊勢では、磯が身近なものだ。
- ・ 自然は、気軽に行ける身近でフレンドリーなものだった。
- ・ つららを舐めて水分補給する保育園が伊勢志摩には残っている。
- ・ 「鳥羽の風は生まれたての風だ」と言われた。
- ・ 二見浦海岸は風を感じながら友人と朝まで語るほど落ち着く場所だ。
- ・ 伊勢志摩には、海や山があり、畑もある。「人間と自然が共生している場所」が全てあり、自然に支えられて生きていると感じられる。
- ・ 元気でもとても協力的な老人が多い印象だ。この良い老人の方々に私達やその親が育てられ、恵まれていると感じる。
- ・ 子どもの頃山に登った時、その山道は平地と違い危ないところもあり、怖い経験だったが、「自然の中を生きている」という感覚が良かった。

## 【C班】 「私の人生と伊勢志摩の自然文化との関わりを話そう！」 キーワード

### ◆海

- ・ 移住した理由は「海に憧れていたこと」「地域の人の繋がりを感じられる場所に住みたい」ということで、理想の生活が手に入った。
- ・ 「海のなかに入る」といことが当たり前で、ずっと海は生活の中にあるような暮らしをしてきた。
- ・ 地元サーファーたちは海から上がったら堤防沿いにあるゴミ箱に捨てたゴミをいれるという習慣がある。そういったところから、自然と繋がっていたのではないかと思う。
- ・ 日本海側は12月に入ると日光が見えなくなるので、伊勢志摩では毎日晴れて日光浴ができるのがとてもうれしい。
- ・ 答志島は、8月中は「お盆」という考え方で、お盆に海で泳いではいけないという迷信がある。
- ・ 子どもの頃夏休みには、水着で友達の家に行きそのまま浜に行ったり、山の中に勝手に入って遊んだり、浜で花火などをして遊んでいた。
- ・ 伊勢では海はすぐに行ける距離ではない。地元の人には五十鈴川で泳いでいる。

### ◆「変わらないものは変わらない」 「変わるものは変わる」

- ・ 答志島のお祭りの雰囲気も良かったが、大間の浜から見る景色が胸に残った。
- ・ 答志島の魅力的なところは沢山あるが、何も知らずに行くとなだの漁村風景の島である。
- ・ 国立公園だということは理解しなくていいが、この地域と自然に価値があることは知ってもらいたい。
- ・ 海と関わることや海を守ることに深い信念を感じて行っているわけではなく、行動が習慣化して自然とやっていること。
- ・ 伊勢神宮では宇治橋を渡ると、広大な自然に囲まれており変わらぬ景色が広がっている。
- ・ 神宮があるからこそ自然が守られているというのももちろんだが、自然を守ることによって人々の生活が守られているというのを始めて知った。
- ・ 神宮ではお祭りの内容や建物の形など、本質部分は変えない。
- ・ 伊勢志摩は良くも悪くも変わってない。嫌だったところがより研ぎ澄まされて嫌になっている部分も。

## 【第2回】ワークショップ



日時：令和7年1月9日（木）  
場所：青峰山 正福寺（鳥羽市）  
参加人数：

- ・ 検討メンバー **19人**
- ・ オブザーバー＋事務局6人 **計25人**



### 【第2回WSの流れ】

- ・ 開会・本日の予定・趣旨説明
- ・ アイスブレイク
- ・ 個人ワーク  
(第1回WSふりかえり)  
(ビジョンに盛り込みたいことばを書き出す)
- ・ 全体ワーク  
(書き出したことばとその理由・思いを共有する)
- ・ 休憩
- ・ ふりかえり・チェックアウト
- ・ 今後の予定等事務連絡
- ・ 閉会

## 【アイスブレイク】 伊勢志摩をオノマトペ（擬音語・擬態語）で表現

- ◆ **キラキラ、きらきら**：伊勢神宮、輝きや温かみ、太陽の光、海に反射、初めて見た海の水面の反射、太陽も山も海もきらきらしている、地元に戻ってきて伊勢志摩の魅力再発見
- ◆ **ビュウビュウ、びゅーびゅー**：神風、伊勢は寒いと北海道の方が言っていた、伊勢の寒さは特殊、海からの風重たい、潮風浜風が山まで届く
- ◆ **シーン**：自然の中は静かな空間
- ◆ **ヤーヤー**：人のあったかさ
- ◆ **ザブーン**：海に真横に住んでいる、伊勢志摩は海から切り離せない
- ◆ **サー**：水面が波なく様子
- ◆ **ツヤツヤ**：魚がツヤツヤ
- ◆ **ピカッ**：太陽の反射伊勢志摩パールロードなど運転してると
- ◆ **ザワザワ**：伊勢神宮や人の様子
- ◆ **ワイワイ**：伊勢神宮、人がしゃべっている
- ◆ **ワクワク**：観光客わくわく
- ◆ **サンサン**：おひさまさんさん、海が印象的、海の反射
- ◆ **ポカポカ**：温かい感じ、心が温かくなるような

## 【全体ワーク】①「将来のビジョン：ビジョンに盛り込みたいことば、願い、思いを書き出して共有」 ②「ふりかえり：他の人のことばで面白かったもの・共感したのもの・印象に残ったもの」

### ◆「つながり」 (人、自然、文化との繋がり、等)

- ・伊勢志摩に何回来ても雰囲気が変わらない。自然が豊かで変わらない安心感がある。
- ・伊勢志摩には自然のなかで生まれた文化が多くあり、それを感じてもらうことが良いキーワードになる。感じる、聞く、見る、触れる、五感で体感するのが良い。
- ・豊かな自然はご先祖さまの恩恵である。それを我々は受けるだけでなく繋ぐ役目を意識する。
- ・人と自然が共生している場所であることも魅力。これからは魅力を発信して次世代に伝えることが大事である。
- ・人が続けてきた伊勢志摩を、意識をもって更に持続する必要がある。
- ・自然への敬意。伊勢志摩地域の方は自然を舐めてはいけなさと身をもって知っている。親や上の世代から受け継がれているので、自然への敬意をこれからは持つてほしい。

- ・人の繋がり、自然との繋がり、未来と過去の時間の繋がり。意識して自発的に繋げていく。過去からもらったものを未来に繋ぐ継承こそ、今を生きている自分達の役割である。今だけで終わらせないという意識を持つことが大事である。
- ・自然文化歴史は伊勢志摩らしさを醸し出す大事な要素であると思う。自然はもちろんだが文化歴史が自然に合わさることで自然への敬意が生まれる。今後も大事にしたいと考える。
- ・昔も今も海女さんがいる、これからは居て欲しい。「継承」を国立公園全体のビジョンとしたいと考える。
- ・鳥羽、志摩など漁師町の景観。豊かな海や山の資源、伊勢エビやアワビ、トロサワラなどを維持する。
- ・昔から変わらないもの、人が生活するなかで、暮らしのなかでつくったもの。それを昔の人が今に受け継いできた。
- ・伊勢志摩の食は生きるだけでなく、食べた人を幸せにする。それが自慢である。次の世代に繋いで残していく取組を入れたい。

## 【全体ワーク】①「将来のビジョン：ビジョンに盛り込みたいことば、願い、思いを書き出して共有」 ②「ふりかえり：他の人のことばで面白かったもの・共感したのもの・印象に残ったもの」

### ◆「決断」 (決断する世代、間の世代、等)

- ・続けるのか辞めるのか等、何かを決断するタイミングの世代が多い。頑張る為には未来に繋げる人がいないと頑張れない。子供たちがここに住みたい、働きたいと思える地域であってほしい。
- ・伊勢志摩国立公園にたくさん来てもらいたいありがたいが、過去はレジャー開発が進み、伊勢志摩の景観が失われ、国立公園指定取り消しの危機があった。
- ・過去からの学びで転換点である。オーバーツーリズムで来てもらうのは有難いが、利用するだけでは搾取ではないか。利用ではなく国立公園の自然に教えて貰うと思っている。
- ・私達は自然を大事にしてきた80~90代の先人から話を聞くこともできる、次の世代に伝える中間地点にたっている。人の営み、伝承していくことも私達の使命である。

- ・責任を持って利用の管理をして大切に使うべきである。インバウンドなど多くの方が来るなかでより良い活用を考え、自然への敬意をもって責任ある管理が必要である。
- ・いつまでも伊勢志摩国立公園であり続けるには私達が決断する時期にきている。
- ・決断のサイクルのなかでそのタイミングがきている。そこから逃げず、次世代の為にも決断して守っていききたい。
- ・決断する世代と聞いて覚悟がみられた。自然が変わるなかで決断することもある、その覚悟があり嬉しい。



# 【全体ワーク】①「将来のビジョン：ビジョンに盛り込みたいことば、願い、思いを書き出して共有」 ②「ふりかえり：他の人のことばで面白かったもの・共感したもの・印象に残ったもの」

## ◆「変わらずに変わり続けよう」 (心のふるさと、誇り、自慢できる、等)

- 日本人の心のふるさと。精神文化は伊勢志摩ならではである。原風景が残され、多くの人が癒しを感じてリフレッシュして帰る。
- 昔は海藻だらけだった海底がサンゴだらけのように、変わっていくものに対応することが必要である。
- 伊勢志摩に住む多くが、自分達が国立公園に住んでいる意識が希薄である。地元を誇りを持ち、それを自慢できる伊勢志摩であってほしい。
- 伊勢志摩に来てくれる人、住んでいる人、人と自然には境界線があることを知りながら、自然に生かされて、自然に教えて貰う。自然は有限にあるものではない。
- 変わらずに変わり続けよう。自分の楽曲の歌詞で、伊勢志摩に籠り歌を作る。
- 社会や環境が変わり適応することも大切だが、芯の部分は変わらないと表現している。伊勢志摩も商売、宿などそれぞれの市町村イメージがあり、その良さを自分らしさとしてひとつの方向に向かう取組ができれば良い。

- 「わがわが」の良さをひとつの方向に向けて進めることが大切である。各地域の文化歴史を大切に、変わるものは変わり続ける。
- ありのままの価値である風景や海の幸、海女さんを将来も大事にすることが大事。新しいものや商品を作り上げるなかで、今の価値を保つのはエネルギーがいるが将来に残したい。
- 自然との共生、自然と生きていくのは当たり前かもしれないが、海に潜る、山に狩りにでる、危険を伴い生きていく。変わらない安心がある、日本人の心のふるさとである。それを伝承して次世代にも受け継ぐ必要がある。
- 県外に出ている人が多いが、いつでも戻れる場所として心において欲しい。
- 10年先に伊勢志摩と関わって良かったと、伊勢志摩を誇りに思っていて欲しい。
- 取り込む。外部からの観光客によって外から気づかされることもあるので取り込みつつ、当たり前を維持しながら新しい要素を入れて前に進むことが必要である。

## 【第3回】ワークショップ



日時：令和7年1月21日（火）  
場所：志摩庁舎 大会議室（志摩市）  
参加人数：

- 検討メンバー **22人**
- オブザーバー＋事務局5人 **計27人**



### 【第3回WSの流れ】

- 開会・参加者紹介・本日の予定
- 趣旨説明、第1回・第2回WSふりかえり
- 個人ワーク  
(ビジョン案への意見や提案を書く)
- 全体ワーク  
(書き出した意見や提案、その理由・思いを共有する)
- 休憩
- ふりかえり・チェックアウト
- 今後の予定等事務連絡
- 閉会



# 【伊勢志摩国立公園ビジョン案】※伊勢志摩国立公園の10年後、20年後の将来像

## <大ビジョン>

### A案：「つながるわ、ひろがるわ、未来へつなぐ伊勢志摩」

「輪（つながり）」「和（調和）」「私（個性）」の三つの「わ」が重なり合い、新たな未来を創る姿を表現。

### B案：「つながるわ、ひろがるわ、わたしらしさが輝く伊勢志摩」

自然と人々の永続的なつながりを強調した表現。

## <小ビジョン>（大ビジョンの詳細説明&ビジョンとアクションとをつなぐもの）

### 1. 一人ひとりが輝く（我が）

伊勢志摩は、住む人と、訪れる人、一人ひとりが自分らしく輝き、周囲を尊重しながら共に成長する国立公園を目指します。「私らしさ」が調和の中で最大限に発揮される国立公園を目指します。

### 2. 人と人、人と自然がつながる（輪が）

人々がつながり、自然と共に生きる喜びの「輪」を広げます。自然への敬意を忘れず、そこにあるものとして共存する意識をはぐくみます。多様な人と自然の交流により持続可能な未来を創造する国立公園を目指します。

### 3. 地域の誇り（自慢価値）と一体感（和が）

受け継がれる文化、自然、歴史を大切に守りながら、未来へと伝えます。「変わらずに、変わり続ける」精神を基盤に、「心が帰りたい」と思える国立公園を育みます。

## 【個人・全体ワーク】①大ビジョンの案について

### ◆A案について

- A案の説明に三つの「わ」があるのに、ビジョンでは「つながるわ」と「ひろがるわ」の二つしかないのがバランスが悪いのでは。三つ目の「わ」があればと感じた。
- 「わ」の順番も「私」、「輪」、「和」のように「わ」の意味合いが大きくなるようにすればいいのではないか。
- 「つなぐ」を「つなげる」や「つなごう」など主体的にしてもいいのではないか。
- 国立公園のビジョンなので、ビジョンの最後の「伊勢志摩」を「伊勢志摩国立公園」と言い切ってよいのではないか。
- 「つなぐ」というキーワードをビジョンに入れたかったので、今回の案に含まれていて良かった。
- A案は非常に分かりやすく、説明しやすい。
- A案で「つながる」が続いているので、「挑戦」等の言葉に置き換えられたらいいのではないか。
- 「つながるわ」と「未来につながる」が重なるので、「未来へつづく」のような表現もいいのでは。

- 「つながる」が重ねて使われるので、小ビジョンででてくる「育む」も当てはめる候補としてはいいのではないか。
- 前回のWSや、小ビジョンの「人と人」や「人と自然の交流」といった言葉から「継承」がテーマになっていると思ったので未来につなぐA案を選んだ。

### ◆B案について

- B案の「わ」を漢字に当てはめて、「つながる輪、ひろがる和、私らしさが織り成す伊勢志摩国立公園」と考えた。
- B案の「わたしらしさが輝く」も「未来につなぐ」につながってくるのではないか。

### ◆その他

- ビジョンは「わが、つなげ、伊勢志摩」だと読みやすいのでは。
- A案とB案のどちらがいいかは決められなかった。
- 「わがわが」という単語をこのWSで初めて知った。面白いと思うので、初めて見た人もわかるように「わがわが」についての説明をいれてはどうか。

# 【個人・全体ワーク】②小ビジョンの案について

## ◆小ビジョンについて

- 小ビジョンの「わが」を活かしたほうがいいのでは。
- 小ビジョンで尊重と敬意といった言葉がでてくるが、人に対する尊重と自然に対する敬意の意味合いについて再度考える必要がある。
- 「心が帰りたい」のキーワードの評価が良かった。
- 小ビジョンで「周囲を尊重しながら」とあるが、尊重だけでなく、他のワードも入れたい。他の人の意見を尊重するだけでは前に進まないのではないか。
- 何かをするには「挑戦」も必要ではないかといった意見も出た。
- 小ビジョンのジャンル分けは良いなと思う。
- 「挑戦」といった言葉があったが、小ビジョンの3に「変わり続ける」要素が少ないと思うので、「挑戦」や「ブラッシュアップ・磨き上げていく」といった要素があってもいいのではないか。
- 伊勢志摩国立公園のビジョンは人の営みを中心に考えていくのは良いが、人の営みには自然が不可欠であるので、美しい自然を守り続けようといったニュアンスが含まれていると嬉しい。
- 小ビジョンで1、2はしっかりきた。
- 小ビジョンの3は、「心が帰りたい」国立公園とあるので「安らげる」のような表現を小ビジョン3の見出しにつけてもいいのではないか。
- 小ビジョンの1の見出しで（我が）とあるが、（私が）のほうが周りを尊重しているように感じる。
- 伊勢志摩国立公園の特徴は民有地96%だと思うので、小ビジョンも「人」について最初から言及していいなと思った。



## 伊勢志摩国立公園ビジョン案



### 「つなげるわ、ひろげるわ、未来につなごう伊勢志摩国立公園」

「私（個性）」「輪（つながり）」「和（調和）」の三つの「わ」が重なり合い、新たな未来を創る姿を表現しました。

#### 1. 私が輝く

住む人も訪れる人も、一人ひとりが輝き、周囲を尊重しながら挑戦し成長する国立公園を目指します。「私らしさ」が調和の中で最大限に発揮される国立公園を目指します。

#### 2. 人と自然の輪がつながる

人々をつなぎ、人と自然が共に生きる喜びの「輪」を広げます。自然への敬意を忘れず、共存する意識を高めます。多様な人と自然の交流により希望ある未来を創造する国立公園を目指します。

#### 3. 地域の誇りと和が育まれる

受け継がれる文化、自然、歴史を大切に守り、地域一体となって未来へと伝えます。「変わらずに、変わり続ける」精神を基盤に、「心がかえりたい」国立公園を目指します。

#### ～検討メンバーの想い～

「わが」には「私の」という意味があります。そこから、「私」だけでなく他の人も尊重し、「わが」が2つつながって共に輝く「わがわが」にしようという希望と覚悟の気持ちを、このビジョンに込めました。

# ビジョン検討・作成とその後の流れ

